# 思いやれる自然体

榎田 あつ子
宮崎県

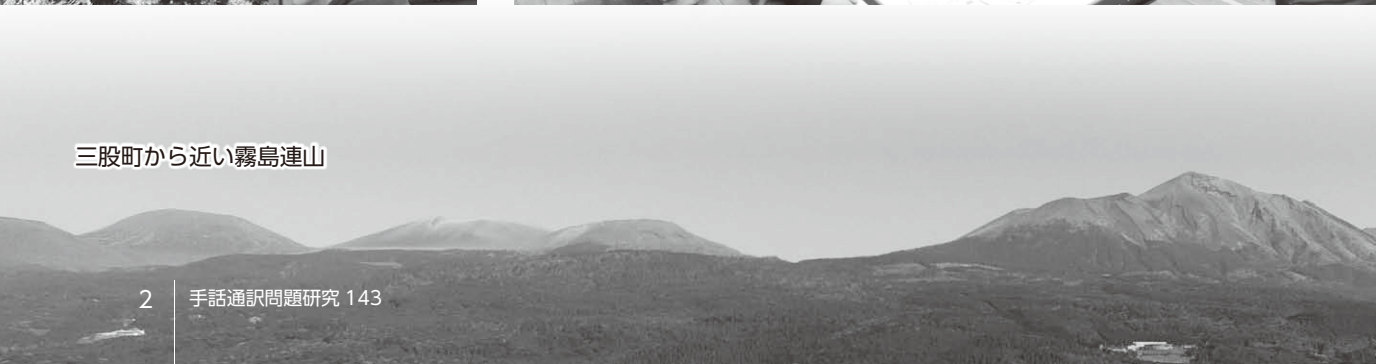
大海原を静かに低空で滑空し、降り立った宮崎空港。
ここは、72年前特攻隊の基地として若い人々の命を、南方へと送った飛行場である。

戦後生まれ「団塊の世代」である榎田さんは約20年間、手話活動をしている。
地元、三股町手話サークルの発起人の一人。若い世代の人とも積極的に関わっている。
老若男女が集うこのサークルは10代の高校生から80代まであらゆる年代層で構成されている。

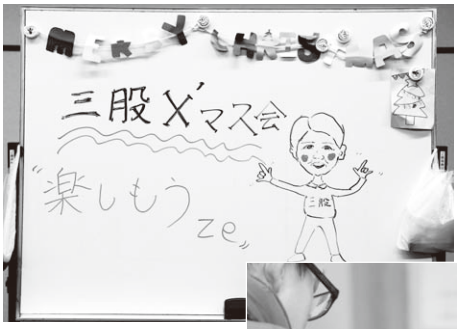
会員が作った大人気の「手作りしめ縄」を
みんなで分け合う

地方では車がないと移動が難しい為、
高齢者の免許更新について相談中

榎田さんは、ろう者をはじめとして、みんなの話をまず受け止める。
その心のキャパシティの大きさに驚かされる。菩薩様のような心の広さに魅せられた人は、
その人柄に導かれてゆく。彼女への敬愛は、「思いやり」となって他へとバトンタッチされる。
そんな関係が20年続いている、とサークル仲間は話してくれた。
三股の地で、物静かな榎田さんの存在は、素敵に輝いている。



三股町から近い霧島連山


三股Xマス会
楽しもうze

地域で密に心を通わせ合う榎田さんの、人と人の関係が、若い人たちにも伝わる。
自ら率先してサークル会場の準備を手早く進める高校生の姿などに、清々しく思う。
自然体での思いやりと、差し伸べる少しの勇気と行動があれば、雰囲気が和む。
自然に与えること、喜んでもらえたことで自らの心も豊かになっていく。

三股町手話サークルメンバーたち

世代を超えて伝わる「大切さ」が見えた。

写真/文　松本 博